

議事録

件 名：令和2年度第4回さぬき市地域公共交通会議

日 時：令和3年（2021年）3月19日（金）午後3時00分～4時10分

場 所：さぬき市役所3階301・302会議室

出席者：紀伊会長、尾崎委員（会長職務代理）、佐藤委員（代理出席）、
六車（誠）委員、白山委員、六車（均）委員、松本委員、山内委員、
頼富委員、村上委員、溝渕委員、宮本委員、近藤委員（代理出席）、
佐々木委員、中野委員、南委員、藤本委員、間島委員、宮崎委員、
元山委員、西丸委員、堀委員

事務局：（都市整備課） 津田課長、満濃主幹、津村副主幹

傍聴者：0人（新型コロナウイルス感染症予防対策の一環として傍聴受付なし）

配布資料：資料1 さぬき市地域公共交通計画（案）
資料2 本格運行に向けて解決すべき課題への対応
参考資料 さぬき市コミュニティバス乗降者数比較表、新時刻表

【次第】

1 開会

事務局 さぬき市都市整備課 津田課長

2 会長挨拶

紀伊会長

3 議題

（1）さぬき市地域公共交通計画について

事務局：資料説明（資料1）

会 長：それでは皆さんからご意見や質問をいただきたい。

委員：P90 に実証運行とあるが本格運行ではないか。

事務局：誤植ですので本格運行に訂正する。

委員：計画全体は問題ないと思うが、P87 で収支率という言葉が出てくるが、一般の人は収支率をどのように算出しているのかわからないため、説明書きを追加した方がよいと思う。また、説明の仕方としては、P86 の基本目標を実現するために、目安としての指標が P87 に整理されていて、これを事業進捗のバロメーターとしてとらえていくということだろう。さらにこれらを踏まえてどのように改善したらよいか（PDCA サイクル）をわかりやすくするといった捉え方をすればよいと思う。また、（時刻表の）路線図については、地形に合った形で作成しているが、今後見直す場合はバスだけではなく、乗り継ぎを意識して JR やことでん等の鉄道を入れた図にするのが望ましい。

最近では幹線系の交通機関は冊子型の時刻表を作成しない傾向にあり、インターネット検索が主流となっているため、「標準的なバス情報フォーマット」を活用し、コミュニティバスも含めたデータのオープン化をしておく必要がある。

事務局：収支率の計算式については追加したい。目標値についても、基本目標を目指して取り組む中で、結果として目標値がついてくるものだとして認識している。路線図については、大川バスの引田線と JR・ことでんを入れたかったが、このサイズ感だとコミュニティバスの路線が多く、カラフルであるためわかりづらくなるとの懸念から断念した。掲示用の A1 サイズの大きな路線図やホームページには、鉄道なども入れたバージョンもお見せしたいと考えている。また、市のホームページを訪れた方が乗り継ぎ時刻を検索しやすいように、コミュニティバスの時刻表のそばに JR 四国などのリンクを張らせていただく予定である。「標準的なバス情報フォーマット」については、現在取り組み進行中である。

委員：ことでんバスのマップだと下図に薄い地形図が入っており、バスの接続状況や施設名称・位置関係がなんとなくわかるようになっているので参考にしてほしい。

会長：目標値については、事業の達成状況に応じて計画年次内にどのように考え何を実施するかを判断する重要な指標となる。これを活用し、いろいろな主体が関わることになるため、共通認識のもとそれぞれが連携して検討する必要がある。

それでは、本会議でこの計画案を了承することよろしいか。

委員：一同異議なし。

（2）さぬき市コミュニティバスの本格運行に向けて

事務局：資料説明（資料 2、参考資料）

会長：それでは皆さんからご意見や質問をいただきたい。

- 委員：かなり踏み込んだ修正を行っており、朝の津田高校のダイヤ見直しもよい対応だと思う。志度・造田・多和線のデマンド運行も問題なく実施できている。コロナの影響は不安だが、これから利用者も増えてくるのではないかと期待している。
- 会長：これから実際に運行する中で様々な意見が出てくると思うが、利用者にも慣れがあると思うので、すぐに直すことはやめた方がよいと思う。修正については、PDCAを回しながらいずれかのタイミングで必要性の協議を進めつつ検討いただきたい。
- 委員：コミュニティバスの利用者の推移については、（前年度との実績比較では）比較するデータが悪いと思うので、（再編）効果があったのかどうか分からないだろう。外出している人がどれくらいいるのかを比較して利用率の変化をみる必要がある。コロナ以前のデータはないため厳しいが、Googleの「コミュニティモビリティレポート」というのがあって、日本全体または都道府県レベルで、カテゴリ別の訪問者数がオープンになっているので、利用率・利用者数等を確認するのもよいだろう。ただし、その変化を見るのは難しいので長い期間を踏まえて検証するのがよいと思う。また、変更したことによりこれまで利用していた人が利用できなくなることが問題であり、事業者と住民に直接当たってフォローしていく必要があり、その反面、新たに利用できるようになった人もいるわけで、両面で捉えて判断することが望ましい。
- 会長：前年度比のデータはあくまでも参考として取り扱うべきだと思う。運輸局では運輸統計をとっており、平均的にどれくらいの割合かを発表している。コロナ禍の中、バスで前年度比6割は悪くない数値と思う。他地域との比較でどの程度のパフォーマンスかを表に出さなくても中で検討するほうがよいと思う。さらに、コロナで不安に思っている人はたくさんいると思うが、公共交通がクラスターの原因になっている事例は聞こえてこないので、注意して利用していればそこまで感染する場所ではないという意見もあるかと思う。コミュニティバスがそういった情報提供の場になれば、利用推進の活動にもなりよいのではないかと。

（3）今後のスケジュールについて

- 事務局：今後、地域公共交通計画の公表作業を進めていく。次回会議は6月以降になると思うが、それまでにも個別に相談させていただくと思うのでよろしくお願いしたい。

4 事務連絡

- 事務局：特になし

5 閉会